

中野区議会議員

中村延子

区議会レポート

NOBUKO NAKAMURA

vol.43

令和7年8月号

発行／立憲・国民・ネット・無所属議員団

中野区中野 4-11-19
Phone: 03-3228-8876
Fax: 03-3389-8718

編集／中村延子事務所
中野区弥生町4-32-6-303
Phone: 080-6533-9450
email: n@nakamuranobuko.jp

www.nakamuranobuko.jp



5月に臨時会が開かれ、新たな議会人事が決まりました！

議長には森たかゆき議員（立憲・国民・ネット・無所属議員団）、副議長には小林ぜんいち議員（公明党議員団）が選出されました。特別委員会は、中野駅周辺整備・西武新宿線沿線まちづくり調査特別委員会、スマートウェルネスシティ調査特別委員会、防災対策調査特別委員会の3つの委員会に決定しました。中村延子は、議会運営委員会副委員長、総務委員会、スマートウェルネスシティ調査特別委員会の所属となりました。

スマートウェルネスシティ(SWC)とは？

SWCの理念は、ウェルネスをこれからのまちづくり政策の中核に捉え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの政策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指すとしています。

中野区では、SWC中野構想(案)をまとめ、区民の意識と行動を変える「健康づくり」、社会参加や交流を促す「つながりづくり」、歩きとなる「まちづくり」といった施策の方向性を示したものです。よりよい生活習慣や社会参加を区民に直接働きかける「人へのアプローチ」と、自然と行動変容につながる環境づくりを進める「まちへのアプローチ」を展開していきます。SWC施策の構築にあたり、全庁的な推進会議を設置するほか、SWCをリードしていく事業については「SWCパイロット事業」として位置づけ、重点的に取り組んでいきます。



中村延子のプロフィール

1981年 9月2日生まれ 東京都中野区出身

おとめ座／B型／酉年
趣味：音楽、料理、旅行、読書

1994年 東京文化小学校卒業

小学校5年生の冬、ブラジルで(社)CISVの11歳キャンプに1ヵ月参加し、9カ国の子どもたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

1997年 東京文化中学校卒業

15歳で単身アメリカに渡る決意。

2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業

在学中、夏休みを利用し宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクインに選ばれた。

2005年 米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。2004年 北京大学医学部へ短期留学。

2005年 民間企業に就職

株式会社ケン・コーポレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理業務の一端を担う。

2009年 衆議院議員手塚よしお秘書

地元事務所に勤務。

2010年 参議院議員蓮舫秘書

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に出向。

2011年 中野区議会議員 初当選

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。

2015年 中野区議会議員 2期目の当選

2,513票をいただき、2期目の当選。区民委員会委員長、少子高齢化対策特別委員会に所属。後期は、総務委員会委員、少子高齢化対策特別委員会委員を務める。

2019年 中野区議会議員 3期目の当選

2,603票をいただき3期目の当選。前期は子ども文教委員会、中野駅周辺整備・都市観光調査特別委員会に所属。現在は総務委員会、危機管理・感染症対策調査特別委員会副委員長を務める。

2020年1月 第一子を出産

2023年 中野区議会議員 4期目の当選 (2057票)

2024年3月 第二子出産



兄と2人で祖母の故郷・広島県福山市にて



メイデーでのスピーチ



北京大学に短期留学



2011年4月中野区議選



立憲・国民・ネット・無所属議員団

堺市と大阪市へ視察に行ってきました！

6

月24日と25日に会派で視察に行ってきました。24日は堺市で、議会基本条例についてと児童発達支援について、25日はグラングリーン大阪を含む「うめきたプロジェクト」についてお話を伺いました。今後の議会活動にいかしてまいります。



グラングリーン大阪視察



堺市視察

保活セミナーを開催します！

来

年4月の保育園申し込みの前に、保活セミナーを会派有志で開催します。来年4月に保育園入園を目指している方や、中野区の保育状況が知りたい方など、ご興味がある方はぜひご参加ください。なお、『中野区保育所等のご案内』の冊子は8月20日に発行される予定です。

開催日時

9/2 14時からスタート 火

開催場所



申し込み方法

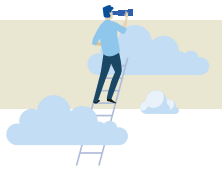


※申し込み方法はXでご案内します



令和7年第二回定例会で一般質問を行いました！

1. 行政報告について



1 中野駅新北口駅前エリア再整備事業について

Q 好調な財政状況にも恵まれ、当初のスキームと同じである必要はなくなった。今後の見直しにあたっては、区民が未来のまちづくりを楽しみに思えるコンセプトを掲げ、進めていくべきでは。

A タウンミーティングや意見交換会など対話を十分に重ねて、現在の再整備事業計画を一部見直していきたい。

Q 今後は、再整備事業のスキームも含めてサウンディング調査を行っていく予定だが、区として優先順位をどこに置いて決定をしていくのか。

A 区民にとって特別な場所であり、100 年先でも中野区の顔として愛され親しまれるようすべき場所だということを最優先に必要な判断をする。

Q 当初の募集要項では、多目的ホールのみが、民設民営と明記されていた。子ども施設や展望施設は、そもそも施工予定者の提案であり、区が求めたものではない。このエリアにどのような機能が必要なのか改めて検討が必要。また、ホール以外の機能についても、事業者による整備所有運営を求めていくべきと考えるがどうか。

A ホール以外の施設においても、民間の創意工夫も含めて検討していきたい。

Q 現在の区有施設整備計画には権利床として取得し、財源確保を目的とした資産の有効活用を図っている。この考え方を踏襲していくのか。将来的な施設更新費を考慮した持ち方を検討していく必要がどうか。

A 区有地等資産活用の考え方についても見直す必要があると考えている。具体的な考え方は、総合的に検討する。

Q 今後の施設に関する区民の意見聴取については、幅広い区民の方々からの意見を聞ける仕組みの検討が必要と考えるがどうか。

A 開催頻度・開催場所・形式等を工夫してより多くの区民から意見を得やすい環境づくりにも努める。

Q 今後の事業者選定では、事業成立性や概算事業費についても公募要件に加える事を検討すべきと考えるがどうか。

A 事業の成立性は重要であると考えている。公募時に求める事業成立性や概算事業費はサウンディング調査により社会情勢を踏まえて公募要件を整理する中で検討をする。

Q 協定のあり方がどうだったのかの検証も必要。当初提案を守ってもらう仕組み、また区がイニシアチブをとれるような協定のあり方が求められると考えるがどうか。

A 今般の見直しに至った経緯から昨今の厳しい社会情勢においても事業を円滑に推進できるよう協定締結のあり方など必要な検討を行う。

Q サウンディング調査や、公募要件の見直し等、現段階で見込めるスケジュールの見込みは。

A 年内を目途に民間事業者へ調査を行い、年度末を目途に計画の見直し素案をまとめていく。

2. 次期基本計画について



1 財政運営について

Q 財政運営の考え方についてについて、区としてどのように物価高騰分を考慮し積み立てていくのか伺う。

A 今後、物価変動の影響などを考慮した見直しを検討しまとめ次第示したい。

Q これまで施設類型ごとの標準規模を持つ事を求めてきた。区有施設整備計画の中で、延べ床面積をコントロールできるようになることに加え、財政的にも基金計画との連動が可能になると考えるがどうか。

A 一律に標準規模を決める事は難しい。一方で、工事費は引き続き高騰しており、対策は必要なことから新築や改築を行う際の床面積等について全庁的に共有し確認する場を設けることを検討したい。

Q 年度間調整分の規模を変更することにより、その分を義務教育施設整備基金や社会福祉施設整備基金に積み増しも可能になる。財政調整基金の年度間調整分の規模についても見直しが必要と考えるがどうか。

A 規模の妥当性については他自治体の状況や過去の実績などを勘案して見直しの検討を行いたい。

Q 次期区有施設整備計画では、施設の建て替え期間を長寿命化が可能であると判断された場合は大規模改修を行った上、建築後 80 年で建て替えとすることとした。この方針変更による、財政フレームへの影響は。

A 長寿命化した場合、費用は後年度負担となり平準化されると想定している。長期間をみると長寿命化は解体費用の減も含め、財政面での効果があると考えている。

2 スマートウェルネスシティの推進について

Q 基本計画改定にあたっては、SWC を重点プロジェクトに位置付ける事もひとつの選択肢と考えるがどうか。

A 次期基本計画における重点プロジェクトのひとつである「地域包括ケア体制の実現」の中に位置付けていくことを考えている。

Q 区が目指すべきウォーカブルなまちづくりの目指すべき姿の共通目標を持ち、その目標にむけた施策を基本計画に落とし込んで進めていくべきと考えるがどうか。

A 次期基本計画では、施策の1つに「歩きたくなるまちづくりの推進」を位置づけ、全庁的な共通理念として区の様々な事業に反映していきたい。

Q 区は九州大学と地域包括ケア推進パートナーシップ協定を結び、医療や介護、健診といった健康関連のデータを九州大学に提供、データ分析によるフィードバックにより健康寿命の延伸や健康格差の解消など、区民の健康増進を図ることを目指している。SWC で具体的にどのように活用していくのか。

A 今後立ち上げていく SWC プロジェクトに反映させたい。現在取り交わした「覚書」にはワクチン接種歴などの一次予防に関するデータは含まれていないが、今後分析内容などについて協議していく。

Q 女性は初潮を迎える思春期から女性ホルモンの影響を大きく受け、生涯にわたり続く。将来的に子どもを産む、産まないに関わらず、プレコンセプションケアや包括的性教育は女性自身が自らの健康を維持していくために必要な知識であり、区として課題に取り組んでいくべきではないか。

A 女性の健康リテラシーを高める SWC プロジェクトの1つとして、民間とも連携しながら取り組む。

Q 女性がかかりつけ婦人科医を持つ事を推奨されているが繋がっていない。生理痛や過多月経など、自分だけで問題を抱えがちだ。思春期から医療につながる取組を検討していくべきと考えるがどうか。

A 思春期を視野にいれた、かかりつけ婦人科医の推奨を検討したい。



3. RS ウィルス感染症について

Q RS ウィルスは初感染乳幼児の場合は重症化することがあり、近年の研究では感染した2歳未満の乳幼児のうち 25% が入院していた。日本における RS ウィルス感染症による小児の死亡数は、2008-2012 年の5年間で、年間平均 31.4 人とも報告されている。まずは RS ウィルス感染症について、ワクチンの存在を妊婦・高齢者ともに知っていただく事が必要だと考えるがどうか。

A 区 HP において RS ウィルス感染症の特徴や主な症状、予防対策およびワクチン接種について周知しており、今後も広報の工夫を図りたい。

Q 医療費、おやの精神的負担や一定期間仕事にいけない経済的影響、もちろん未来ある子どもを守るという観点からも、区として妊婦への RS ウィルスワクチンの一部助成を実施するべきと考えるがどうか。

A 実施に向けて中野区医師会等と協議・検討していく。

4. 国際交流について



Q 台北市中山区との交流について、未来ある子どもたちが交流を通じて相互理解を深め友好関係を続けていけるような仕組みづくりの検討が必要ではないか。

A 教育委員会とも連携しながら検討していきたい。



第2回定例会一般質問



4月に台湾台北市中山区に日台議連で訪問し、中山区長と懇談しました